

自分たちにできることは？③（青少年委員「委員研修」）



「あらためて、教育ビジョンを理解する」

- ①杉並区教育ビジョン2022について
- ②グループトーク
- ③まとめ



青少年委員である自分たちにとってもしあわせな活動にできるよう、仲間と協力して取り組み、これからも学び続けていきたい。（泉市会長）



これまで青少年委員による杉並区教育ビジョン2022（以下、「ビジョン」という。）についての意見交換会の様子を紹介してきましたが、第3回となる今回は、そのまとめとも言える委員研修について御紹介します。

ビジョンについての理解を深め、青少年委員一人ひとりが実践の手がかりを得ることを目的とし、講師に教育振興基本計画審議会会長の牧野 篤さんと同審議会委員であり、この3月まで青少年委員だった増田 由巳さんをお招きしました。

牧野さんから子どもを取り巻く社会の状況やどの世代にも必要とされる承認や肯定、地域コミュニティと教育改革などビジョンの策定の経緯や込められた思いや願いについて、それを受けて増田さんから青少年委員としての具体的な取組について、お二人から丁寧にお話をいただきました。

会を重ねるごとに熱を増すグループトークから、青少年委員一人ひとりの考えが深まったり、広がったりしていることが分かりました。



このビジョンが青少年委員の活動を自信をもって進める根拠になる。緩やかな繋がりが、多重に連なっていく地域...これを実現できるのが青少年委員なのでは？ 個性的な仲間と共に、新しい価値を生み出していこう。（増田前会長）



教育の当事者として、よい人間関係を広げるための支援をすることが青少年委員の役割なのかもしれない。

今のビジョンはふわふわしているからこそ、新しい価値を生み出すことができると感じた。

子どもたちに、自ら未来を切り拓く力を育むためには、地域の中での体験活動が大事だと再認識した。

芯となる考えがぶれなければ、実践は多様であってよいし、自信をもって活動していきたい。



「完璧」で「きれい」な形を求めるのではなく、その過程を認め合い、寄り添い合う気持ちを大切にしたい。

「みんなが幸せ」「みんなが幸せを創る」ことが、心豊かに、心身共に健やかに過ごすことにつながると思う。